

第75回 九州地区小学校長協議会研究大会佐賀大会

開催要項

【参集型】

令和5年度 第75回 九州地区小学校長協議会研究大会佐賀大会開催要項

1 大会主題

「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」
～ 多様な価値をもつ他者と協働し、持続可能で豊かな社会を創造する子供を育てる学校経営 ～

2 趣 旨

九州地区小学校長協議会では、全国連合小学校長会と歩調を合わせ、令和2年度から「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を研究主題として実践的な研究に取り組んできた。

学習指導要領の前文には「一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」とある。そのためには、社会に開かれた教育課程の実現を目指す中で「個別最適な学び」と「多様な価値をもつ他者との協働の学び」の質を高め、予測不能な社会の変化を乗り越えて豊かな人生を切り拓いていく子供を育てることが必要である。そしてそのことがSDGsを念頭に置いた持続可能な社会の創り手を育てることにつながっていくと考える。

佐賀県小学校校長会では、本大会で具体的に研究を深めるための副主題を設定するにあたり、全国連合小学校長会の研究主題の主意を大きく以下の2点でとらえることとした。1つ目は、「Society5.0時代」の到来や新型コロナウイルス感染症への対応など予測不能で劇的な社会の変化に対応できる子供を育てること、そして2つ目は多様な価値を持つ他者と共に豊かな社会を創造する子供を育てること、である。

この2点を実現するためには、学校の教育活動のすべてを、その本質を見据えながら社会に開かれた新たな価値をもつものに生まれ変わらせることが不可欠である。そのために、我々校長は判断を迫られる局面において最適と思われる手段をとるのみでなく、より大局的な視座から未来を見据えた学校経営を推進することが求められる。

そこで、これからの時代を生きる子供を、自ら学び、多様な価値を持つ他者と協働し、激動する社会と柔軟に向き合い、折り合いを付けながら課題を解決し豊かな社会を創造する担い手に育てるという強い決意のもと、「多様な価値をもつ他者と協働し、持続可能で豊かな社会を創造する子供を育てる学校経営」を本大会の副主題とし、研究を深めていくことにした。

4年目を迎える研究主題のもと、学校教育が果たすべき役割と使命の大きさを真摯に受け止め、新時代の学校を創造する進取の気概を持つ経営者として新しい時代に求められる理念と指導性を究明していきたい。

3 主催 九州地区小学校長協議会 佐賀県小学校校長会

4 後援 全国連合小学校長会 佐賀県教育委員会 佐賀県市町教育長会連合会
佐賀市教育委員会 佐賀県中学校校長会

5 期 日 令和5年8月22日(火)・23日(水)・24日(木)

6 会 場 全体会：佐賀市文化会館 大ホール
分科会：佐賀市文化会館 グランデはがくれ 佐賀県青年会館 佐賀県スポーツ会館

7 日 程

時間	9	10	11	12	13	14	15	16
8月22日 (火)					受付	幹事会	受付	分科会運営連絡会
8月23日 (水)		受付	開 会 式	全 体 会	会場移動・昼食	分 科 会		
8月24日 (木)	受付	全 体 会	記念講演		閉 会 式			

8 大会日程及び会順

【参集型】

8月22日(火)			8月23日(水)			8月24日(木)		
時刻	行事	内 容	時刻	行事	内 容	時刻	行事	内 容
9:00			9:00			9:00	受付	佐賀市文化会館
							全体会	大会宣言文報告
10:00			10:00	受付	佐賀市文化会館	10:00	記念講演	1 講師紹介 2 講演 「小さな虫が世界につながる」 講師 野村 周平氏 (東京国立科学博物館 研究員)
				開会式	1 開式の言葉 2 国歌斉唱 3 挨拶<大会会長・全連小会長> 4 感謝状贈呈 5 祝辞<佐賀県知事・佐賀市長> 6 来賓紹介 7 祝電披露 8 閉式の言葉			
11:00			11:00	全体会	1 日程説明 2 主題等の説明 3 全連小報告 ※ 移動・昼食に係る諸連絡	11:00	閉会式	1 開式の言葉 2 大会会長挨拶 3 次期開催県挨拶 <沖縄県> 4 閉式の言葉
12:00			12:00	移動・昼食	移 動 昼 食 (各分科会会場)	12:00		
13:00	受付	グランデはがくれ	13:00			13:00		
14:00	幹事会	1 開会の言葉 2 会長挨拶 3 役員紹介 4 協議 5 連絡 6 閉会の言葉	14:00		第1分科会 <経営ビジョン> (佐賀市文化会館) 第2分科会 <組織・運営> <評価・改善> (佐賀市文化会館) 第3分科会 <知性・創造性> (佐賀市文化会館) 第4分科会 <豊かな人間性> <健やかな体> (佐賀県青年会館) 第5分科会 <研究・研修> (佐賀県スポーツ会館) 第6分科会 <リーダーの育成> (グランデはがくれ) 第7分科会 <学校安全> <危機対応> (グランデはがくれ) 第8分科会 <社会形成能力> (グランデはがくれ) 第9分科会 <自立と共生> <連携と協働> (グランデはがくれ)	14:00		
15:00	受付	グランデはがくれ	15:00	分科会		15:00		
16:00	分科会運営連絡会	1 開会の言葉 2 会長挨拶 3 全体説明 4 諸連絡 5 閉会の言葉 ※ 分科会打合せ (分科会毎に閉会)	16:00			16:00		
17:00			17:00			17:00		

9 記念講演

演題 「小さな虫が世界につながる」

講師 野村周平氏（独立行政法人 国立科学博物館勤務）



■プロフィール

1962年佐賀県生まれ

1985年九州大学卒業

1990年九州大学大学院農学研究科修了 農学博士

1995年より国立科学博物館動物研究部に勤務

2017年より現職 国立科学博物館 動物研究部 陸生無脊椎動物研究グループ・グループ長
九州大学大学院地球社会総合科学府非常勤講師（客員教授）

■専門分野

日本昆虫学会 日本甲虫学会などに所属

コウチュウ目ハネカクシ科アリヅカムシ亜科のアジア・オセアニア地域における分類学的研究に従事

10 参加者数

都道府県名	会員数	割当数	分科会									提案者	司会者	
			1	2	3	4	5	6	7	8	9			
			経営ビジョン	組織・評価・運営改善	知性・創造性	豊かな人間性	研究・研修	リーダー育成	学危機対応	社会形成能力	自立連携・協働			社会との共生
福岡	696	210	24	25	23	23	23	23	23	23	23	23	2	2
長崎	306	95	12	13	8	9	8	11	11	11	12	12	2	2
熊本	329	100	15	15	10	10	10	10	10	10	10	10	3	3
大分	237	75	10	11	8	8	8	7	7	8	8	8	3	3
宮崎	208	63	8	8	8	8	6	5	6	7	7	7	3	3
鹿児島	478	145	17	18	16	15	15	16	16	16	16	16	3	3
沖縄	226	25	4	3	2	2	2	3	3	3	3	3	1	1
佐賀	147	147	18	20	14	14	14	16	17	17	17	17	1	1
参加者数	2,627	860	108	113	89	89	86	91	93	95	96	96	18	18

【参集型・オンライン型】

1 1 分科会研究主題・協議題一覧

分科会		研究主題	協議題	提案県
1	<経営ビジョン>	先見性のあるビジョンに基づく創意ある学校経営の推進	①未来を見据えた明確な学校経営ビジョンの策定	沖縄
			②学校経営ビジョンに基づく創意ある学校経営の推進	佐賀
2	<組織・運営>	学校経営ビジョンの具現化を図る組織づくりと運営及び学校教育の充実を図る評価・改善の推進	①学校経営ビジョンの具現化に向けた活力ある組織づくりと学校運営の推進	宮崎
	<評価・改善>		②自ら未来を拓く力を育む教育を確かなものとする学校経営の評価・改善	鹿児島
3	<知性・創造性>	知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントの推進	①「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組	鹿児島
			②しなやかな知性と豊かな創造性を育む教育活動を実現するカリキュラム・マネジメントの推進	熊本
4	<豊かな人間性>	豊かな人間性と健やかな体を育むカリキュラム・マネジメントの推進	①新たな社会を見据えた人権教育と豊かな心を育てる道徳教育の推進	熊本
	<健やかな体>		②たくましく生きるための体力向上や健康づくりを目指す教育活動の推進	長崎
5	<研究・研修>	学校の教育力を向上させる研究・研修の推進	①教職員の資質・能力の向上を目指した研究・研修体制の充実	宮崎
			②キャリアステージに応じた資質・能力や「チーム学校」への参画意識の向上を図る研修の推進	熊本
6	<リーダー育成>	これからの学校を担うリーダーの育成	①学校教育への確かな展望をもち、行動できるミドルリーダーの育成	福岡
			②社会の変化をとらえる能力と、豊かな人間性を身に付けた管理職人材の育成	大分
7	<学校安全>	命を守る安全教育・防災教育の推進、及び様々な危機への対応と未然防止の体制づくり	①危機回避能力を育む安全教育・防災教育の充実と、地域や関係機関との連携を図った安全教育・防災教育の推進	福岡
	<危機対応>		②いじめや不登校等に適切に対応できる体制の整備と、高い危機管理能力をもつ組織・体制づくり	鹿児島
8	<社会形成能力>	社会形成能力を育む教育活動の推進	①社会の発展に貢献しようとする資質・能力・態度を育む教育活動の推進	宮崎
			②自立・協働・創造の心を育むキャリア教育の推進	大分
9	<自立と共生>	特別支援教育の推進及び学校・家庭・地域との連携・協働と学校段階等間の接続・連携の推進	①子供の自立を図る特別支援教育の推進	長崎
	<社会との連携・協働>		②家庭・地域等と連携し、充実した教育活動を展開できる学校づくりの推進	大分

第1分科会 <経営ビジョン>**研究主題 先見性のあるビジョンに基づく創意ある学校経営の推進****【趣旨】**

今日、グローバル化や情報化の進展は、政治や経済、文化などのあらゆる領域に影響を及ぼしており、様々な変化への対応が学校教育に求められている。また、新型コロナウイルス感染症へ適切に対応し、新しい生活様式の中でこれからの時代を生き抜くためには、生涯にわたって自ら学び続けようとする態度、様々な変化に対応できる柔軟性、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造できる力などの育成が求められる。

このような中、これからの時代に求められる教育を実現するためには、「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有し、学校と社会が連携及び協働した教育活動の展開が重要である。そのため学校経営においては、「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、社会の変化を見極め、自ら未来を拓く力を育む教育を着実に推し進めていく必要がある。

また、校長は、保護者や地域住民の声を確実にとらえながら、これからの社会を生き抜く子供たちの望ましい姿を思い描き、その育成に向け、先見性のある経営ビジョンを策定することが重要となる。

さらに、校長の強いリーダーシップの下、教員の職務に対する誇りと使命感を大切にしながら、未来を拓く資質・能力を身に付け、心豊かでたくましい子供を育てる教育活動を組織的・計画的に進めていかなければならない。

本分科会では、子供たちが生きる未来社会を見据えた明確な経営ビジョンを掲げ、マネジメント能力を発揮し、学校や地域の特色を生かして、創造と活力に満ちた学校経営を推進するため、その具体的方策と成果を明らかにする。

《協議題1》未来を見据えた明確な学校経営ビジョンの策定（沖縄県）

《協議題2》学校経営ビジョンに基づく創意ある学校経営の推進（佐賀県）

第2分科会 <組織・運営><評価・改善>**研究主題 「学校経営ビジョンの具現化を図る組織づくりと運営及び学校教育の充実を図る評価・改善の推進」****【趣旨】**

今日、グローバル化や情報化の進展により、社会状況は急激に変化してきている。このような中、校長は、自ら未来を拓く力を育む教育を展開するために掲げた学校経営ビジョンの実現に向け、活力ある組織・運営体制を築いていく必要がある。そのためには、学校組織を刷新し活気ある組織づくりを行うとともに、教職員一人一人が参画意識をもって組織を機能させることが大切である。

また、校長は、学校経営ビジョンに基づく確かな学校経営と教育実践を進めるとともに、絶えずその評価・改善に取り組み、学校評価を重要なマネジメントツールとして位置付け、改善に向けたより実効性のあるものにしていくことが求められる。さらには、人事評価も踏まえつつ、自校の教職員に対する適切な指導や助言が、個々の意識改革や資質・能力の向上、学校組織全体の成長・発展につながるようにしていかなければならない。

本分科会では、校長の示す学校経営ビジョンの具現化を図るための組織づくりと運営、及び学校経営の充実を図る評価・改善の具体的方策と成果を明らかにする。

《協議題1》学校経営ビジョンの具現化に向けた活力ある組織づくりと学校運営の推進（宮崎県）

《協議題2》自ら未来を拓く力を育む教育を確かなものとする学校経営の評価・改善（鹿児島県）

第3分科会 <知性・創造性>

研究主題 知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントの推進

【趣旨】

今の子供たちが社会に出て活躍する時代には、グローバル化や情報化が一層進み、あらゆる分野で加速的な変革の動きを見せると予想されている。未知の状況が次々と起こる急激な社会変化の中で、子供たちが未来の創り手となり、生き生きと過ごしていくために必要な資質・能力を育成する必要がある。

学習指導要領では、「どのように学び、どのような資質・能力を身に付け、何ができるようになるのか」を明確にし、子供たちによりよい人生や社会を創り出すためのしなやかな知性と豊かな創造性を育成していくことが求められている。そのために、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有し、連携・協働しながら「社会に開かれた教育課程」にしていかなければならない。

また、校長には、教育の内容を教科等横断的な視点で組み立て、学校内外の教育資源を最大限に活用しながら教育活動を展開させ、教育実践の分析と客観的なデータに基づいて教育課程の実施状況を評価・改善して学校の教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの推進が求められる。

本分科会は、校長のリーダーシップのもと、子供たちが豊かな未来を創り出す、持続可能な社会のつくり手となることができるように、しなやかな知性と豊かな創造性の育成をめざす「社会に開かれた教育課程」の実現と、カリキュラム・マネジメントの推進についての具体的方策と成果を明らかにする。

《協議題1》「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組（鹿児島県）

《協議題2》しなやかな知性と豊かな創造性を育む教育活動を実現するカリキュラム・マネジメントの推進（熊本県）

第4分科会 <豊かな人間性> <健やかな体>

研究主題 豊かな人間性と健やかな体を育むカリキュラム・マネジメントの推進

【趣旨】

今日、グローバル化や情報化の進展に伴い、価値観の多様化が進む中、未来を担う子供たちが自らの夢や目標の実現を図るためには、学力や体力の向上はもちろんのこと、互いを思いやり、尊重する態度や感動する心など豊かな人間性を育むことが大切である。そのために、学校においては、全教育活動を通して体験活動を推進することや、人権教育、道徳教育を基盤とした心の教育の充実を図ることが強く求められている。

また、近年の急激な社会環境や生活環境の変化は、物質的な豊かさをもたらしている反面、精神的なストレスの増大や生活習慣病の増加、体力・運動能力の低下、アレルギー疾患、いじめ、不登校など、子供の心と体の健康に関わる様々な問題を生み出している。校長としては、このような課題を解決するため、家庭や地域と連携しながら、子供一人一人がたくましく成長し、充実した人生を送ることができるよう、心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する取組の充実を図る必要がある。

本分科会では、校長のリーダーシップのもと、豊かな人間性及び健やかな体を育むカリキュラム・マネジメントについて、具体的方策と成果を明らかにする。

《協議題1》新たな社会を見据えた人権教育と豊かな心を育てる道徳教育の推進（熊本県）

《協議題2》たくましく生きるための体力向上や健康づくりを目指す教育活動の推進（長崎県）

第5分科会 <研究・研修>

研究主題 学校の教育力を向上させる研究・研修の推進

【趣旨】

今日、グローバル化や情報化が進展し、社会構造に大きな変化が見られ、学校を取り巻く環境もますます複雑化・多様化している。このような社会の急激な変化や時代のニーズに対応した学校教育の向上・充実が急務である。ここ数年で教職員の世代交代が進み、若い教職員が急増しており、各学校での人材育成は、どの学校でも大きな課題となっている。さらに、GIGA スクール構想に基づく教職員の ICT 指導力の向上も喫緊の課題となっている。

校長は、確かな先見性と洞察力を身に付け、自校の課題を明らかにしながら教職員一人一人の資質・能力を高め、多様な面においてスキルアップを図るよう研修体制を充実させることが重要である。

また、教職員が使命感や責任感、探究心をもち、職務やキャリアステージに応じて求められる資質・能力を生涯にわたって高めていけるよう展望をもたせるとともに、「チーム学校」への参画意識の向上を図る研修を推進していくことも必要である。

本分科会では、校長のリーダーシップのもと、教職員の資質・能力の向上を図るとともに、「チーム学校」への参画意識を高め、学校の教育力を向上させる研究・研修体制の確立とその推進について、具体的方策と成果を明らかにする。

《協議題1》教職員の資質・能力の向上を目指した研究・研修体制の充実（宮崎県）

《協議題2》キャリアステージに応じた資質・能力や「チーム学校」への参画意識の向上を図る研修の推進（熊本県）

第6分科会 <リーダー育成>

研究主題 これからの学校を担うリーダーの育成

【趣旨】

学校におけるリーダーとは、組織の中で教職経験や教育実践を踏まえた知恵や力量を活用し、学校経営に貢献する教職員のことである。校長は、学校の教育力を向上させるために、教職員一人一人の力量を高め、これからの学校を担う人材を育成することが不可欠である。そのために、校長のリーダーシップのもと、学校の教育目標の達成に向け、企画力や実践的指導力等に優れたミドルリーダーを意図的・計画的に育成することが重要である。また、教職員が一体となって取り組む組織的な学校運営を推進していくためには、有能な管理職人材の存在が不可欠であり、校長は、課題解決能力に優れ、信頼を寄せられる管理職人材の育成に努めなければならない。学校内に多くのリーダーを育成していくことは大事であり、そのことは学校経営の充実と円滑な学校運営を図っていくことにつながる。

本分科会では、学校教育への確かな展望をもち、行動できるミドルリーダーや、時代の変化を捉える能力と豊かな人間性を身に付けた管理職人材を育成するための具体的方策とその成果を明らかにする。

《協議題1》学校教育への確かな展望をもち、行動できるミドルリーダーの育成（福岡県）

《協議題2》社会の変化をとらえる能力と、豊かな人間性を身に付けた管理職人材の育成（大分県）

第7分科会 <学校安全> <危機対応>

研究主題 命を守る安全教育・防災教育の推進、及び様々な危機への対応と未然防止の体制づくり

【趣旨】

近年、地震、台風、豪雨、火山噴火等の自然災害が頻発し、猛暑による熱中症も問題になっている。また、通学路等における不審者の声かけ事案や交通事故等、子供が被害者となる事案の発生も後を絶たず、不登校やいじめ等の生徒指導上の問題も依然として深刻な状況である。さらに、世界中で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症のように予測困難な危機事象が今後も発生することが懸念されている。

このような問題は、学校教育上の喫緊の課題となっており、その対応の在り方が問われている。学校ではこのような課題に対して、安全・安心な教育環境を確保するだけでなく、安全に関わる知識・危険予測・回避能力等を子どもたちに育てていく必要がある。さらに、子供たちが予測できない課題に遭遇した時に、課題に向き合い、自ら判断し行動できる力を身に付けさせることも大切である。

また、学校に起こりうる危機に対しては、教職員の意識を高め未然防止と早期発見に努めること、危機発生時には適切かつ迅速な対応をすること、危機後には再発防止に努めることが必要である。これには、校長の強いリーダーシップのもと組織的に対応するとともに、地域や関係機関と連携していくことが大切である。

そこで、本分科会では、「危機回避能力を育む安全教育・防災教育の充実と、地域や関係機関との連携を図った安全教育・防災教育の推進」「いじめや不登校等に適切に対応できる体制の整備と、高い危機管理能力をもつ組織・体制づくり」についての具体的方策と成果を明らかにする。

《協議題1》危機回避能力を育む安全教育・防災教育の充実と、地域や関係機関との連携を図った安全教育・防災教育の推進（福岡県）

《協議題2》いじめや不登校等に適切に対応できる体制の整備と、高い危機管理能力をもつ組織・体制づくり（鹿児島県）

第8分科会 <社会形成能力>

研究主題 社会形成能力を育む教育活動の推進

【趣旨】

グローバル化の進展や技術革新等により、とどまることなく変化する社会の中で、子供たちが夢や目標を持って積極的に自ら未来を切り拓いて生きていくためには、一人一人が自分の能力や可能性を信じ、学習したことを課題解決に生かす力や、多様な人々と連携しながら様々な社会の変化を乗り越えていく力と態度を育てることが不可欠である。そのため、学校では、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、他者と協力・協働して今後の社会を形成しようとする態度や能力を育む必要がある。

校長は、校内の組織体制を整備し、キャリア教育の視点を取り入れた教育活動を一層充実させることにより、社会的自立・職業的自立に向けて必要な基礎的・汎用的能力（人間関係・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力）等、子供に生きる力の基礎を育むことが求められている。

本分科会では、学校の教育活動全体を通じて子供一人一人のキャリア発達を促し、よりよい社会の形成に向けて、主体性をもって社会に参画し、課題解決を図る能力や態度などを育むための具体的方策と成果を明らかにする。

《協議題1》社会の発展に貢献しようとする資質・能力・態度を育む教育活動の推進（宮崎県）

《協議題2》自立・協働・創造の心を育むキャリア教育の推進（大分県）

第9分科会 <自立と共生> <社会との連携・協働>
**研究主題 特別支援教育の推進及び学校・家庭・地域との連携・協働と学校段階
 等間の接続・連携の推進**

【趣旨】

今日、全ての国民が相互に人格や個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を認め合いながら共生する社会の実現が求められている。学校においては、全ての子供たちが各自の能力を生かし、共に生活する中で、互いに認め合い尊重し合う心を育むことが重要である。とりわけ、特別な支援を要する子供一人一人の教育的ニーズに応え、将来の自立に向けての基礎を養っていかねばならない。そのために、校長は自ら特別支援教育に対する理解を深めるとともに、教職員の共通理解や関係機関との連携に基づく支援体制の充実を図っていくことが大切である。

また、近年、子供を取り巻く社会環境の変化から、基本的な生活習慣の乱れや規範意識の希薄化など、健全な成長に関わる様々な課題が生じている。このような状況の改善を図っていくためには、学校・家庭・地域が目標を共有し、それぞれの役割と責任を自覚した取組を展開していくことが必要である。さらに、「小1プロブレム」「中1ギャップ」と呼ばれる異校種間の接続上の課題も依然として存在する。

校長は、保・幼・小・中学校間のスムーズな接続を図り、子供たちの連続的な発達を意識した取組や教育環境づくりをより一層推進する必要がある。

本分科会では、校長のリーダーシップのもと、子供の自立を図るための特別支援教育の推進、及び子供一人一人の将来を見据えた家庭・地域との連携や異校種間の円滑な接続を推進するための具体的な方策と成果を明らかにする。

《協議題1》子供の自立を図る特別支援教育の推進（長崎県）

《協議題2》家庭・地域等と連携し、充実した教育活動を展開できる学校づくりの推進（大分県）

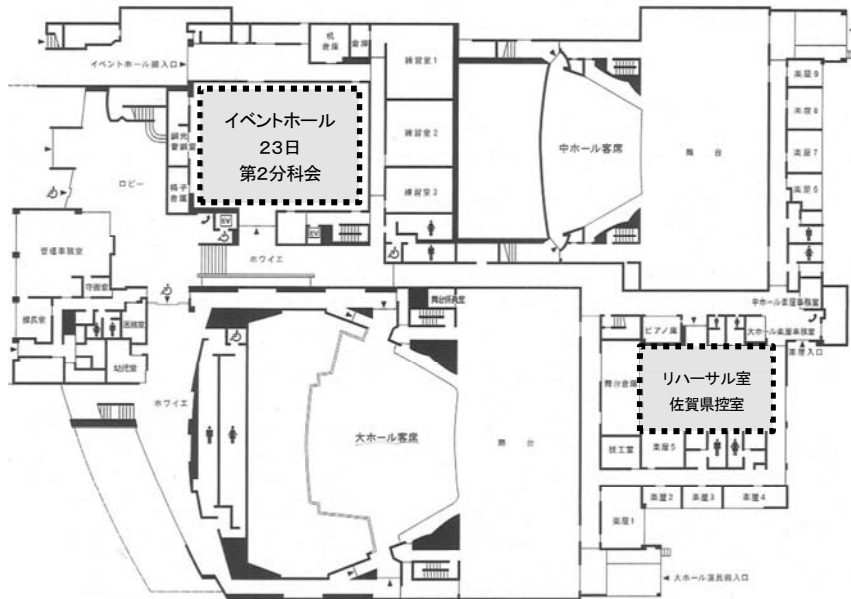
13 会場案内

【参集型】

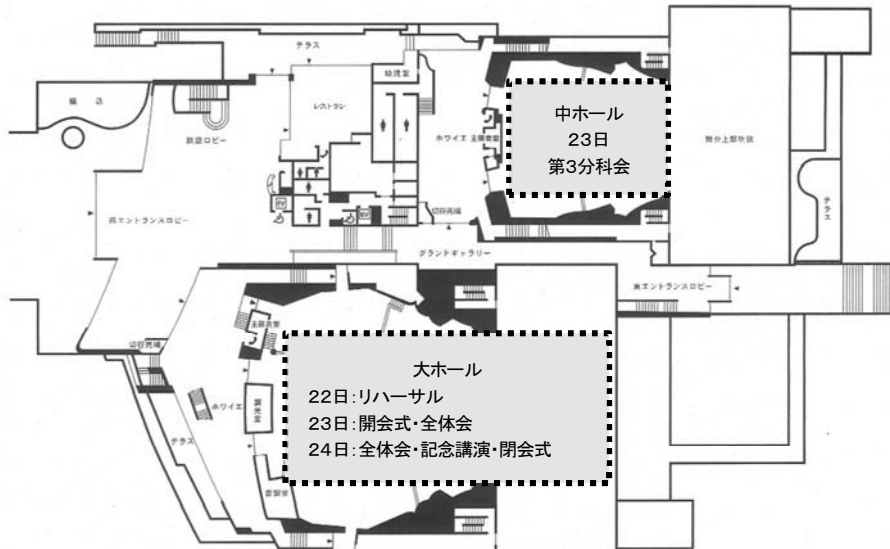
会合名	会場	階	フロアー・会議室	会合名	会場	階	フロアー・会議室
九小協幹事会	Gはがくれ	2	シンフォニーA	第1分科会	市文化会館	3	大会議室
分科会運営連絡会	Gはがくれ	1	ハーモニー	第2分科会	市文化会館	1	イベントホール
九小協懇親会	Gはがくれ		未定	第3分科会	市文化会館	2	中ホール
開会式・全体会	市文化会館	2	大ホール	第4分科会	県青年会館	5	大ホール
全体会・記念 講演・閉会式	市文化会館	2	大ホール	第5分科会	県スポーツ会館	3	大会議室
				第6分科会	Gはがくれ	2	シンフォニー
事務局本部・ 各県事務局	市文化会館	3	和室	第7分科会	Gはがくれ	1	ハーモニーB
				第8分科会	Gはがくれ	2	フラワーA
佐賀県控室	市文化会館	1	リハーサル室	第9分科会	Gはがくれ	2	フラワーB・C
講師・来賓 各県会長控室	市文化会館	3	特別会議室				
歴代会長・感謝 状受賞者控室	市文化会館	3	小会議室				

佐賀市文化会館

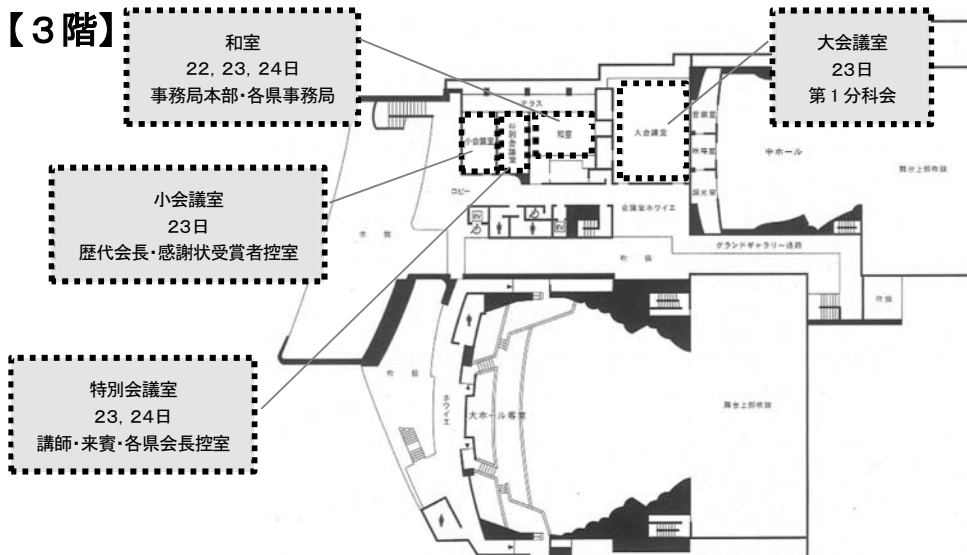
【1階】



【2階】

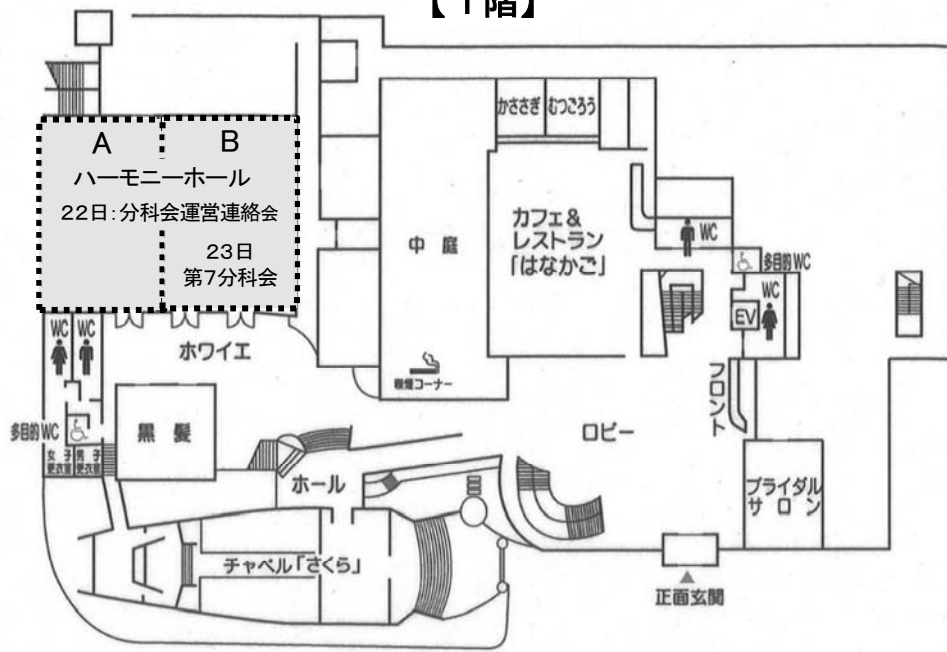


【3階】

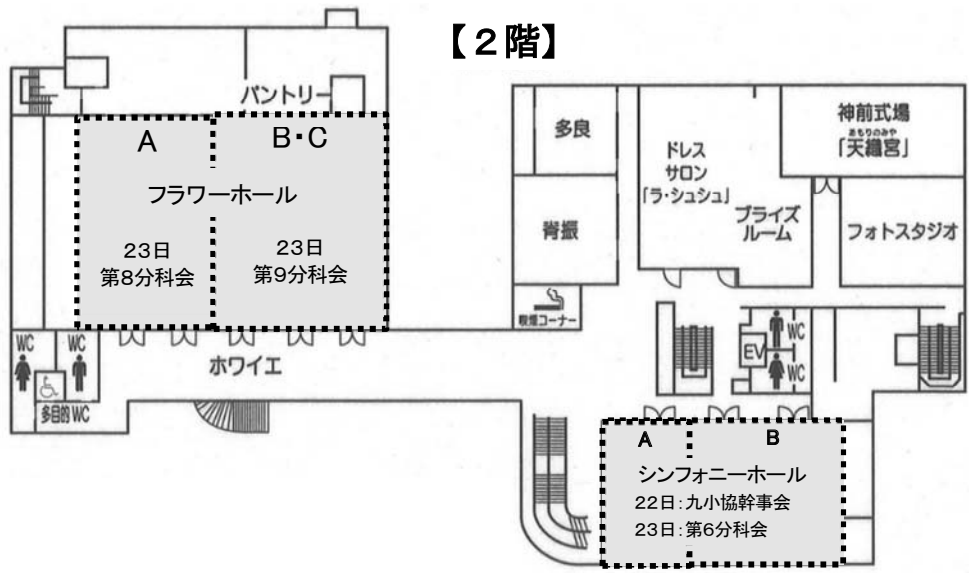


グランデはがくれ

【1階】

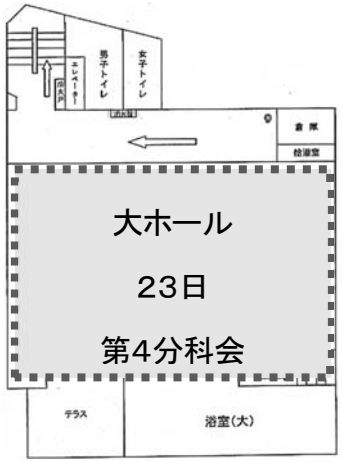


【2階】



佐賀県青年会館

【5階】



佐賀県スポーツ会館

【3階】



14 災害発生時・新型コロナ感染拡大への対応について

(1) 大会前日までに災害（新型コロナ感染拡大した場合を含む）が発生した場合

- ・ 対策本部を佐賀県小学校校長会事務局に設置し、全連小、九小協幹事会と協議のうえ、開催の可否を決定します。
- ・ 本大会は、参加者全員が佐賀県佐賀市に参集しての対面開催とします。ただし、令和5年3月の時点で、新型コロナ感染拡大により、各県に移動制限措置等が出され、参集開催が難しい場合は、全連小、九小協幹事会と協議し、オンラインによる大会への変更を検討します。
- ・ 協議結果については、各県小学校校長会事務局を通じて、参加予定者にお伝えします。なお、申し込み後、メールテスト等により配信確認後は、参加予定者、各県小学校校長会事務局に、メールでお知らせします。

(2) 大会当日に災害が発生した場合

- ・ 大会実行委員長を対策本部長として、佐賀市文化会館および佐賀県青年会館、佐賀県スポーツ会館、グランデはぐくれの緊急時対応担当者と連携しながら参加者の避難誘導、傷病者の対応を行います。
- ・ 参加者は、各会場の責任者、各施設の緊急時対応担当者の指示に従ってください。

15 大会参加費・昼食代

(1) 大会参加費

- ① 参加費（大会要録代等）5,000円 + 弁当1,000円 = 計6,000円
- ② 大会参加費および弁当の領収書は、大会当日に大会要録と一緒にお渡しします。欠席者については、後日、大会要録と合わせて各県小学校校長会事務局に送付します。

(2) 昼食（弁当）

- ・ 全体会会場、分科会会場周辺には、食事ができる所がありません。そのため、佐賀大会については、参加者全員、弁当による昼食とさせていただきます。ご了承ください。

16 参加申込・参加費の振込について

(1) 参加者の申込および『佐賀大会参加証』について

- ① 個人申込書（P21） ※ミシン目から切ってご使用ください。
- ② 個人申込書に記載後、各県小学校校長会事務局に参加費・昼食代6,000円と一緒にご提出ください。

各県小学校校長会事務局への提出期限：令和5年5月12日（金）

- ③ 佐賀大会参加者名簿一覧、分科会グループ番号名簿作成後、参加者の皆様に、「名鉄観光サービス株式会社 佐賀支店」から、『佐賀大会参加証』が封書で送付されます。（7月中旬発送予定）
- ④ 大会当日は、『佐賀大会参加証』をもって受付とし、大会要録を配布いたします。必ず、ご持参いただき、入場する際には、『佐賀大会参加証』を首にかけ、提示いただきますようご協力をお願いします。

(2) 各県小学校長会事務局の申込・参加者名簿の流れ

- ① 各県小学校長会事務局は、各県の参加割当数により、参加者、参加分科会を決定してください。
- ② 各県小学校長会事務局は、参加者から提出された個人申込書をもとに、佐賀大会事務局から送付された第75回九小協佐賀大会参加者名簿一覧（別紙：各県小学校長会事務局用の電子データの様式）により、各県の分科会要請数に従い、参加者名簿を作成してください。
- ③ 個人申込書は、各県小学校長会事務局で保管してください。提出は不要です。
- ④ **参加者名簿一覧の提出：令和5年5月26日（金）**までに、佐賀大会事務局まで、メールで送付ください。

九小協佐賀大会事務局

〒840-0814

佐賀県佐賀市成章町2-16 佐賀県婦人会館3F 佐賀県小中学校校長会事務局

TEL・FAX 0952-24-8669 E-mail: kouchoukai@wing.ocn.ne.jp

- ⑤ 各県小学校長会事務局は、大会参加費・昼食代をとりまとめ、下記の金融機関に振込をお願いします。なお、振り込まれた参加費等については返金できませんので、不都合が生じた場合には、代理の方の参加をお願いします。その際、参加者名簿の変更が間に合わない場合はご容赦ください。

ア 振込額：6,000円 × 参加者要請者数分

イ 振込期限：令和5年5月26日（金）

ウ 受領書：参加費等の振込が確認でき次第、受領書を各県小学校長会事務局に郵送します。

佐賀大会参加費振込先

金融機関：

科 目：

振込先：

17 E-mailの利用

- (1) 佐賀大会に係る事務連絡および、佐賀大会がオンラインに変更になった際に利用させていただきます。参加者は、必ず、個人申込書のメールアドレスの記載欄にご記入をお願いします。
- (2) 各県小学校長会事務局において、個人申込書にメールアドレスが記載されているかをご確認ください。なお、お手数ですが、提出されたメールアドレスに配信できるか各県小学校長会事務局でご確認ください。
- (3) 佐賀大会事務局からのE-mailのテスト配信については、各県小学校長会事務局から参加者名簿が提出され、テスト配信準備が整い次第、各県別に、参加者・各県小学校長会事務局に、件名「九小協佐賀大会テストメール」としてテストメールを配信します。なお、テストメールの配信は、6月上旬を予定しています。

18 宿泊の申込み

- (1) 宿泊の斡旋は、「名鉄観光サービス株式会社 佐賀支店」が、佐賀大会事務局に代わって行います。宿泊の申込を希望される方は、別紙「九小協佐賀大会宿泊申し込みのご案内」の申込書に必要事項を記入の上「名鉄観光サービス株式会社 佐賀支店」に、お申込みください。
- (2) 「名鉄観光サービス株式会社 佐賀支店」に宿泊を申し込まれない方は、個人での対応となりますのでご注意ください。

19 佐賀大会集録について

- ・ 佐賀大会の記録については、「佐賀県小中学校校長会ホームページ」に掲載し、大会集録といたします。HPによる大会集録の公開については、E-mailにて、参加者、各県小学校長会事務局にご連絡させていただきます。

20 その他

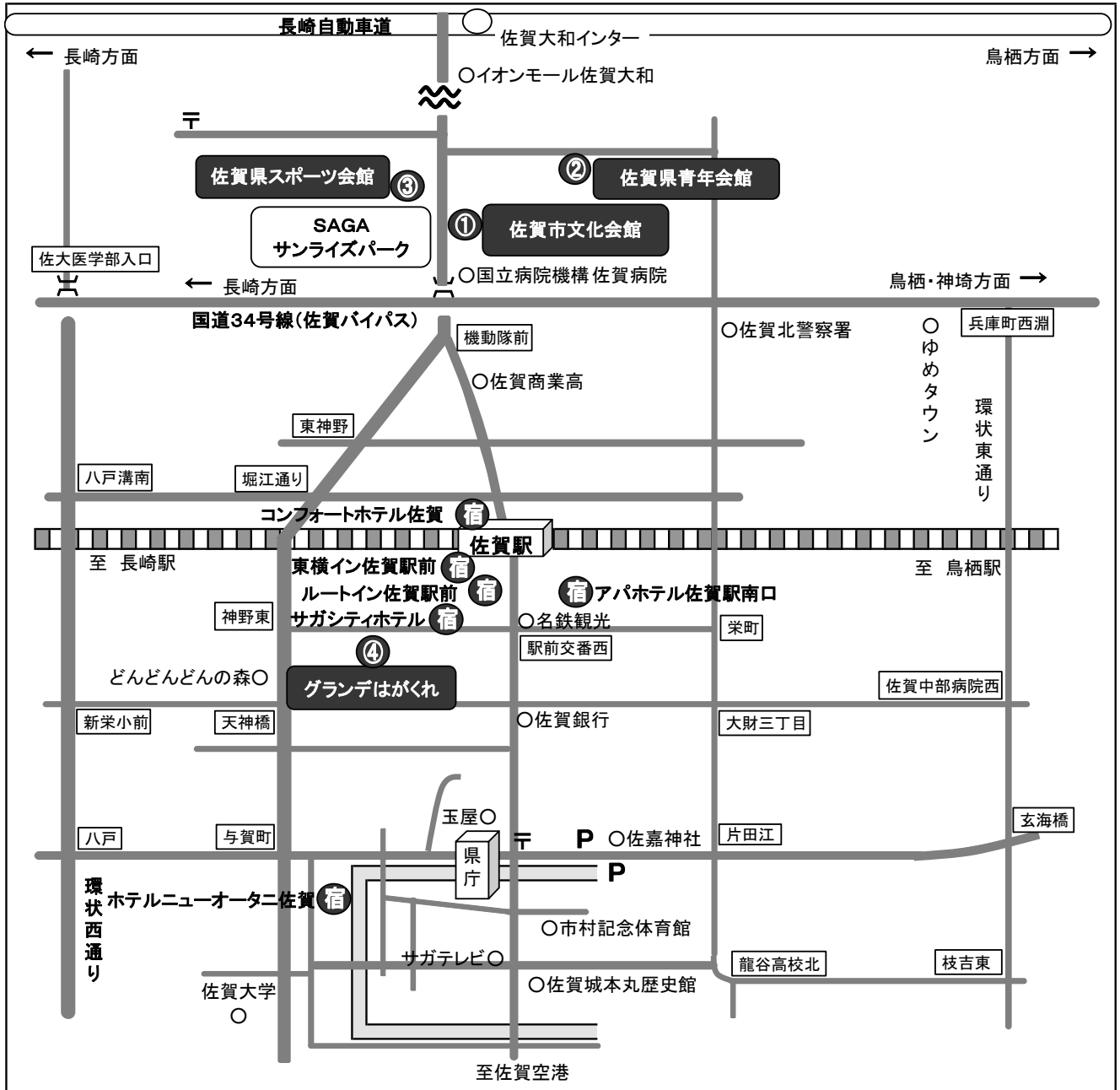
- ・ 大会日程等を本大会要項で確認ください。また、参加分科会・グループ番号については、事前に、郵送された『佐賀大会参加証』に記載しております。必ず確認しておいてください。

● 会場へのアクセス・会場周辺図・ホテル地図

NO	会場名	分科会	住所	電話番号	全体会からの移動
①	佐賀市文化会館	第1～3分科会	佐賀市日の出1-21-10	0952-32-3000	館内
②	佐賀県青年会館	第4分科会	佐賀市日の出1-21-50	0952-31-2328	徒歩
③	佐賀県スポーツ会館	第5分科会	佐賀市日の出2-1-11	0952-30-7716	徒歩
④	グランデはがくれ	第6～9分科会	佐賀市天神2-1-36	0952-25-2212	バス

全体会会場【佐賀市文化会館】

- ★佐賀駅からのアクセス
- 徒歩 / 佐賀駅サンライズ口(北口)から徒歩約20分(1.5km)
 - タクシー / 佐賀駅サンライズ口(北口)より約8分(約1000円)
 - 路線バス / 佐賀駅バスセンター発～SAGAサンライズパーク(市文化会館前)にて下車
- 【佐賀市営バス】佐賀駅バスセンター2番乗り場自動車試験場行(系統番号30)
- 【昭和バス】 ・佐賀駅バスセンター7番乗り場 古湯行き ・佐賀駅バスセンター7番乗り場 佐賀営業所行き
 ・佐賀駅バスセンター7番乗り場 中極小城行き



NO	ホテル名	住所	電話番号	FAX番号
宿	アパホテル佐賀駅南口	佐賀市駅前中央1-164	0952-25-1111	0952-25-1114
宿	コンフォートホテル佐賀	佐賀市駅前中央1-14-38	0952-36-6311	0952-36-6312
宿	東横イン佐賀駅前	佐賀市駅前中央1-10-36	0952-23-1045	0952-23-1046
宿	ルートイン佐賀駅前	佐賀市駅前中央1-9-50	0952-27-7115	0952-41-6868
宿	サガシティホテル	佐賀市駅前中央1-7-31	0952-40-0100	0952-40-0340
宿	ホテルニューオータニ佐賀	佐賀市与賀町1-2	0952-23-1111	0952-23-1122